

感染症発生動向調査委員会報告 9月

《今月のトピックス》

- レジオネラの届出が4件ありました。1月からの報告数は22件で、昨年の報告数16件をすでに超えています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の届出が11件ありました。
- 夏季に流行が見られた、手足口病、ヘルパンギーナ、水痘、伝染性紅斑については、ピークも過ぎ、落ち着いています。

全数把握疾患

平成22年8月23日から平成22年9月26日まで(平成22年第34週から第38週まで。ただし、性感染症については平成22年8月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

<細菌性赤痢>

9月の届出数は、30日現在で2件です。渡航地はスリランカとミャンマーでした。

平成22年の届出は6件で、そのうち5件がアジアでの感染です。全国でも感染者の約8割はアジアでの感染と見られています。

細菌性赤痢については、国立感染症情報センターHPをご覧ください。

<http://idsc.nih.gov/iasr/30/358/tpc358-j.html>

平成22年 週一月日対照表

| | |
|------|-----------|
| 第34週 | 8月23～29日 |
| 第35週 | 8月30～9月5日 |
| 第36週 | 9月6～12日 |
| 第37週 | 9月13～19日 |
| 第38週 | 9月20～26日 |

<パラチフス>

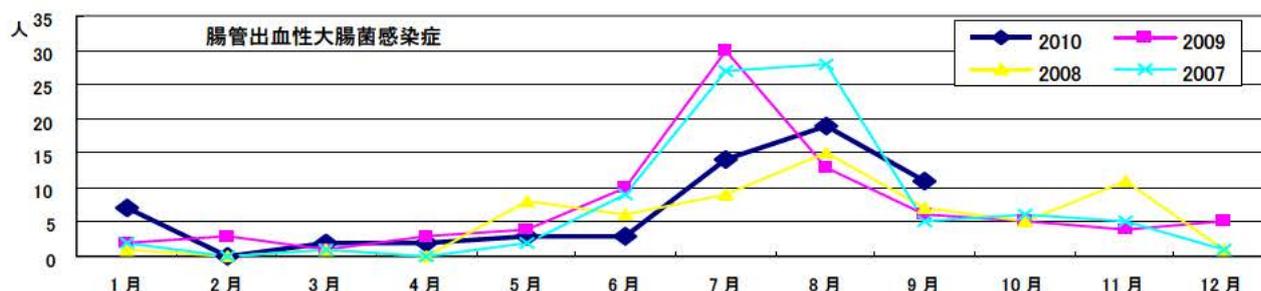
9月の届出数は、30日現在で1件です。渡航地はインドでした。

<腸チフス>

9月の届出数は2件です。家族例(母子)で、母には渡航歴がありました。

<腸管出血性大腸菌感染症>

9月の届出数は、30日現在で11件です。例年夏に多く見られる疾患ですが、冬季も発生が認められていますので、季節にかかわらず、肉の十分な加熱を心がける必要があります。



啓発用チラシ「O157に注意しましょう」も併せてご利用ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

<レジオネラ症>

9月は30日現在で4件の届出がありました。1月からの報告数は22件となり、既に昨年総報告数より増加しています。2007年より市内では増加傾向にあります(表参照)。レジオネラは、市中肺炎の起因菌として重要ですが、過去に、ジャグジーや入浴施設、冷却塔等での集団感染も報告されています。診断された際には、浴槽の種類や温泉、銭湯等の利用状況等を確認する事も重要です。

レジオネラ症の報告数の推移(2001年～2010年9月)

2010年は9月まで

| 年 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全国 | 86 | 167 | 147 | 160 | 281 | 518 | 668 | 886 | 712 | 527 |
| 横浜市 | 0 | 3 | 2 | 1 | 8 | 7 | 28 | 32 | 16 | 22 |

全国のレジオネラ症の報告の傾向は <http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/346/tpc346-j.html> をご覧ください。

<梅毒>

9月は30日現在で3件の届出がありました。

<麻しん>

1件の届出がありました。インドからの輸入例と思われます。

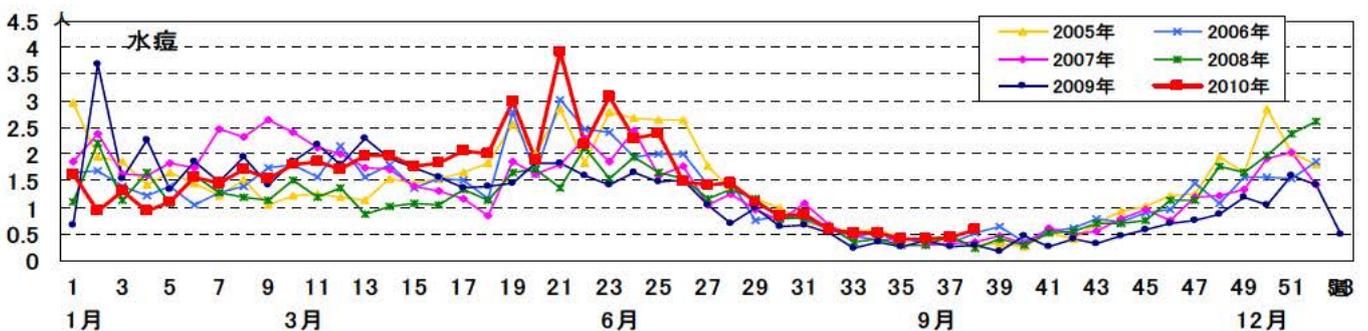
定点把握疾患

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:91か所、内科定点:59か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計197か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計150定点から報告されます。

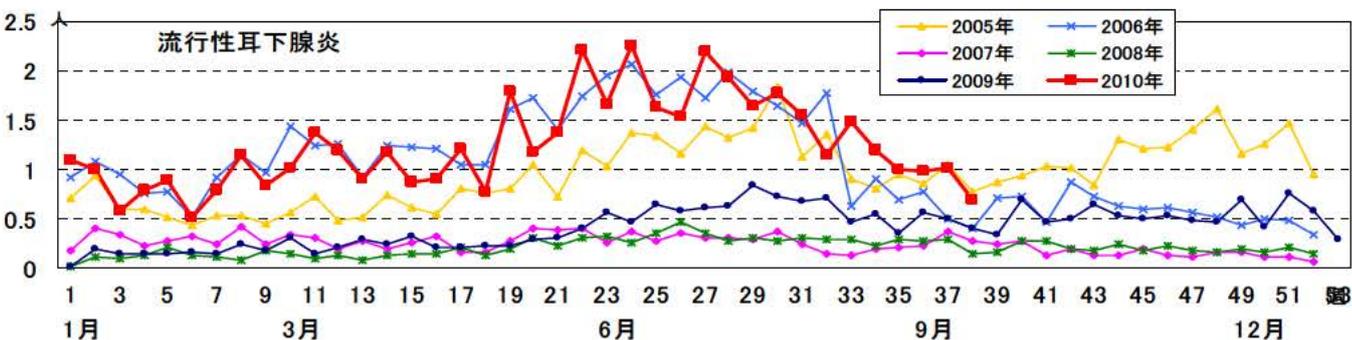
<水痘>

第38週では定点医療機関からの届け出あたり(以下定点あたりとする)0.59です。神奈川県域(横浜、川崎、相模原を除く。以下県域)では0.29、全国0.51といずれも報告数は少ないですが、例年冬にかけて徐々に報告数が徐々に増えていきますので、今後の動向に注意が必要です。



<流行性耳下腺炎>

第38週では定点あたり0.70です。県域0.79、川崎市0.61、東京都0.36、全国0.97でした。例年夏季を中心に流行が見られますが、過去5年と比較しても高めに推移しています。



<インフルエンザ>

第38週では定点あたり0.03です。県域0.03、川崎市0.07、東京都0.07、全国0.04でした。病原体定点等からの検査では、A香港型が4件PCR等で確認されています。

<性感染症>

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の10定点、および泌尿器科・皮膚科系の17定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

8月は、性器クラミジア感染症の報告数は男性21件、女性18件でした。性器ヘルペス感染症は、男性4件、女性9件です。尖圭コンジローマは男性11件、女性4件、淋菌感染症は男性16件、女性2件でした。

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件(鼻咽頭ぬぐい液37件、ふん便3件、その他1)、内科定点2件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点3件(結膜ぬぐい液)、基幹定点6件(鼻咽頭ぬぐい液4件、髄液2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎25人、耳下腺炎4人、胃腸炎4人、発疹症3人、インフルエンザ1人、ヘルパンギーナ1人、手足口病1人、紅斑1人、発熱1人、内科定点はインフルエンザ2人、眼科定点は流行性角結膜炎3人、基幹定点はウイルス性髄膜炎3人、下痢・発熱1人、インフルエンザ1人、インフルエンザ疑い1人でした。

10月12日現在、小児科定点の気道炎患者2人とヘルパンギーナ患者1人からコクサッキーウイルスB(CB)4型、気道炎患者2人からアデノウイルス(型未同定)、耳下腺炎患者1人からムンプスウイルス、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH3型、内科定点のインフルエンザ患者2人からインフルエンザウイルスAH3型、基幹定点のインフルエンザ患者からインフルエンザウイルスAH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気道炎患者3人からエンテロウイルス68型、気道炎患者1人と胃腸炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)、気道炎患者1人と発熱患者1人からライノウイルス、気道炎患者1人からCB4型ウイルス、手足口病患者1人からCA6型ウイルス、紅斑患者1人からヒトパルボウイルスB19型、発疹症患者1人からヒトヘルペスウイルス6型、胃腸炎患者1人からノロウイルスウイルスG2型、基幹定点のウイルス性髄膜炎患者1人からCB2型、インフルエンザ疑い患者1人からエンテロウイルス68型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【検査研究課 ウイルス担当】

<細菌検査>

9月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの検体が2件で1件から *Campylobacter jejuni* が検出されました。

基幹定点からは菌株受付が5件、定点以外の医療機関からは菌株が11件でした。そのうち、基幹定点から、腸管毒素原性大腸菌O6:H16、LT、ST産生が1件検出されました。また、パラチフスA菌および赤痢菌 (*S. flexneri*) が各1件検出されました。

定点以外の医療機関からは腸管出血性大腸菌O157、VT1 & 2が6件、O157、VT2が1件、O26、VT1が1件検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点からの7件で、A群溶血性レンサ球菌が3件から検出されました。その血清型はT28が2件、T1およびTB3264が各1件から検出されました。

表 感染症発生動向調査による病原体検査(9月) 細菌検査

感染性胃腸炎

| 検査年月 定点の区別 件数 | 9月 | | | 2010年1~9月 | | |
|---------------------|-----|----|------|-----------|----|------|
| | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科 | 基幹 | その他* |
| 菌種名 | | | | | | |
| 赤痢菌 | | 1 | 1 | | 3 | 3 |
| 腸管病原性大腸菌 | | | | | 6 | |
| 腸管出血性大腸菌 | | | 8 | | 3 | 47 |
| 腸管毒素原性大腸菌 | | 1 | | 1 | 3 | |
| チフス菌 | | | 1 | | | 1 |
| パラチフスA菌 | | 1 | | | 1 | 1 |
| サルモネラ | | | | 2 | | |
| カンピロバクター | 1 | | | 1 | | |
| 不検出 | 1 | 2 | 1 | 13 | 53 | 1 |

その他の感染症

| 検査年月 定点の区別 件数 | 9月 | | | 2010年1~9月 | | |
|--------------------------|-----|----|------|-----------|----|------|
| | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科 | 基幹 | その他* |
| 菌種名 | | | | | | |
| A群溶血性レンサ球菌 | | | | | | |
| T1 | 1 | | | 25 | 1 | 1 |
| T4 | | | | 3 | | |
| T6 | | | | 1 | | |
| T12 | | | | 5 | | |
| T13 | | | | 1 | | 1 |
| T25 | | | | 1 | | |
| T28 | 2 | | | 9 | | |
| T B3264 | 1 | | | 2 | | |
| 型別不能 | | | | 3 | | |
| G群溶血性レンサ球菌 | | | | 1 | | |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 | | | | | 2 | |
| バンコマイシン耐性腸球菌 | | | | | | 3 |
| 髄膜炎菌 | | | | | | 1 |
| Streptococcus suis | | | | | | 1 |
| Corynebacterium ulcerans | | | | | 1 | |
| 不検出 | 3 | | | 23 | | 10 |

* 定点以外医療機関(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【検査研究課 細菌担当】